

10【^{しょうじょうまい}雛子舞】^{しょうじょうまい}猩々舞（高原田）

長髪で赤ら顔、人間の言葉がわかり、酒が好きだという想像上の動物である猩々の舞です。壱岐の浦、対馬の浦、隠岐の浦と各地から集まった猩々たちが酒盛りをします。その中で、酒好きの猩々、笑い上戸の猩々、心の強い猩々、逆に心の弱い猩々、舞の好きな猩々など5番登場します。同じ酒を飲むにしても、飲み方や様子がそれぞれ性格を反映して異なります。その違いを滑稽に歌いあげ、ダイナミックに舞います。



11【^{さかいおどり}小歌踊】^{さかいおどり}堺踊（下野）

大阪の堺は、信長、秀吉の時代、南蛮貿易で栄えた自治の町でした。「堺、堺といっても花の都にはかなわない」と歌って京の方を持ちあげているなど、当時の風俗を彷彿とさせます。また後半に出てくる「ソッタラ タラト トタント トット」という擬音語・擬態語は、綾子舞の擬音語・擬態語の中でもユニークで楽しいものです。



12【^{いなかくだ おどり}小歌踊】^{いなかくだ おどり}田舎下り踊（下野）

「田舎下りの道すがら 田舎下りの道すがら 我とそなたは浮雲よ 風にまかせていくほどに…」と、この男女の道行の叙情的な歌詞を、少女が無心で踊ります。

また、中世の小歌の魅力にあふれている節回しも聴きどころです。



～ ご来場の皆さまへお願い ～

- ◎会場で購入した飲食の空き容器などは、購入した店舗へ返却してください。
- ◎持ち込まれたゴミ、空きペットボトルなどは、必ずお持ち帰りください。
- ※場内にゴミ箱はありません。ご協力をお願いします。
- ◎お手洗いのご案内
 - ・綾子舞会館向かって右手の仮設トイレ
 - ・客席左後方の建物「ほたる」内のトイレ（身障者用トイレもあります）
 - ・綾子舞会館のトイレは使用できません。あらかじめご了承ください。

主催：綾子舞国指定50周年記念事業実行委員会・柏崎市綾子舞保存振興会

～綾子舞へ応援をお願いします～ 本部テントで受け付けています

「柏崎市綾子舞後援会」会員募集

「柏崎市綾子舞後援会」では、綾子舞の保存伝承活動・伝承学習支援など幅広く綾子舞の応援団活動を行っております。会員の皆さまには、現地公開のご案内や綾子舞の活動情報満載の「後援会報」をお届けしています。

年会費は個人2,000円～、法人・団体1口5,000円（2口以上でお願いできましたら大変ありがたいです）。皆さまのご入会をお待ちしています。



ユネスコ無形文化遺産
重要無形民俗文化財 国指定50周年記念

綾子舞 現地公開

令和8年
9月13日(日)
10:30～15:10

- 観覧エリア開場 10:00～
- オープニング 10:30～
- 公演 10:50～
- 式典 13:50～
- 公演 14:20～

観覧エリア開場時間前の場所とり、席の予約不可

舞台清めの舞	袂 い 舞 (高原田)	
1【小歌踊】	常 陸 踊 (高原田)	7【狂 言】
2【狂 言】	海老すくい (下 野)	8【狂 言】
3【雛子舞】	恵比寿舞 (下 野)	9【小歌踊】
4【小歌踊】	小 原 木 踊 (下 野)	10【雛子舞】
5【狂 言】	海老すくい (高原田)	11【小歌踊】
6【小歌踊】	因 幡 踊 (高原田)	12【小歌踊】
		明神狂れ (下 野)
		烏帽子折り (高原田)
		小 切 子 踊 (高原田)
		猩 々 舞 (高原田)
		堺 踊 (下 野)
		田舎下り踊 (下 野)

綾子舞演目解説

【舞台清めの舞】^{はらまい}祓い舞（高原田）

綾子舞現地公開は、舞台を清めることから始まります。
舞台清めの舞は、高原田では「^{たかんだ}祓い舞」、下野では「^{さんばそう}三番叟」となっており、今年は高原田が務めます。

1 ^{こうたおどり}【小歌踊】^{ひたちおどり}常陸踊（高原田）

常陸の国（現在の茨城県）にあります鹿島神社の正月行事には、若い男女が好きな人の名を布帯に書いて神前に供え、神職の^{ねぎ}禰宜がこの帯を結んで帯占いをしました。常陸踊はこの行事の後の酒宴での歌舞がもとになって生まれたと言われています。常陸踊は、下野と高原田の両座元に残っていますが、歌詞にも踊りにも違いがあります。

2 ^{きょうげん}【狂言】^{えび}海老すくい（下野）

殿様が家来の^{かじゃ}冠者に、明日の来客をもてなすため「鎌倉海老」（伊勢海老）を買ってくるように命じます。冠者は代物（代金）を求めますが、世間知らずの殿様は「^{なんじはか}銭…無い。汝図らうて参れ」と返答、腹を立てた冠者は「しわい（吝い、けちな）殿様」をだましてやろうと一計を案じます。後半の歌には「賀茂」や「桂川」といった京都の地名、「^{あゆ}鮎」「^{うぐい}石斑魚」「^{こい}鯉」「^{ふな}鮒」「^{すすき}鱸」「^{なまず}鯰」など様々な川魚が出て来て、興味をそそられます。なお「さいく長者」は「在五中将」（在原業平）の転訛と考えられています。

3 ^{はやしまい}【雛子舞】^{えびすまい}恵比寿舞（下野）

恵比寿様といえば、商売繁盛、大漁満足などのご利益がある、七福神の中で唯一の日本の神様です。この恵比寿舞は太郎の恵比寿と次郎の恵比寿が沖へ船を漕ぎ出し目出度いことに姫小鯛を釣り上げたという祝歌です。「とおびやろひやろ とおびやろひやろ ぴーこしゃーこする所を」というおもしろい歌詞にもご注目下さい。

4 ^{おはらぎおどり}【小歌踊】小原木踊（下野）

昔、京都の大原に住む女性を「^{おはらめ}大原女」と呼んでいました。
小原木踊は、大原女が都に住む恋しい人に会うために薪や薫物を売って歩く様を表現している踊りです。踊り子が登場する「^{たきもの}さし」と呼ばれる部分は他の踊りと違い、伴奏のない独吟で始まります。
19種類の扇の手振りが美しい踊りです。



5 ^{きんご}【狂言】海老すくい（高原田）

「2」と同じ演目、「しわい殿様」に腹をたてた家来の冠者が殿様をだますストーリーは一緒ですが、高原田と下野では台詞に若干の違いがあります。

「海老すくい川またどっこら程にそうもな」と囃した結果、高原田は「小鮒まじりの^{ぬかえび}糠海老七八升」ですが、先に演じた下野は「小鮒まじりの^{こざっこ}小雑魚」でした。所作、旋律にも違いがあり、それらを発見することも綾子舞の楽しみのひとつ。

6 ^{いなばおどり}【小歌踊】因幡踊（高原田）

昔、鳥取県の東部を「因幡の国」と呼んでいました。因幡踊はその国の殿様のことを歌っています。徳川美術館に所蔵されている「歌舞伎図巻」の中に「いなばおどり」の場面があり、歌詞も踊りの振りも綾子舞の「因幡踊」とよく似ています。このことから、綾子舞が初期歌舞伎の伝わったものであろうということが分かります。

7 ^{みょうじんぐ}【狂言】明神狂れ（下野）

願掛けのため熱田新宮を訪れた飛騨国の^{ざとう}座頭とおふく夫婦。
社人は帝から「盲人、女人禁制」の奉書を受けながら、おふくの色香に迷い参詣を許したばかりか、おふくに酌をさせ禁制の「^{しめ}注連の内での酒盛」を。すっかり良い気分になった神主^{おなご}鳳慶らの宝刀を盗んで逃げた夫婦に慌て、祈禱を行うと明神が現れる。「女子さへみればびろびろ」などおおいにお笑ください。

8 ^{えぼしお}【狂言】鳥帽子折り（高原田）

殿様に鳥帽子を買ってくるよう命じられ、京に上った太郎冠者が都の賑わいに浮かれ、遊び呆けているうちに戻れなくなります。殿様は次郎冠者を呼び戻しに行かせますが…。「帰る城を忘れた」「城のしゃちほこの上に鳥と雀の親子がいたのでそれを目印に帰ろう」といった冠者たちのユーモラスな、やり取りが見もの。

9 ^{こきりこおどり}【小歌踊】小切子踊（高原田）

菅原道真公が九州の^{ださいふ}大宰府に流された時のこと。都を出発する前夜、都七条坊門の文という娘が、心を込めて見送るようにと夢の中でお告げを受け、三条大橋のたもとで小切子（^{たきもの}綾竹のこ）を持って踊った別れの舞が、この踊りの始まりと言われています。

他の踊りと扮装が異なり、袴の裾を括り、^{くく}天冠をかぶり、^{てんがん}小切子を持って踊ります。

